

西光寺だより

第二十三号 平成二十四年七月一日発行

七月、蟬の音が聞こえる季節となりました。「蟬時雨」せみしぐれという言葉があります、多くの蟬が一斉になきたてるその様は夏そのものを感じさせてくれます。

蟬は七年も暗い土の中で暮らし、やっと明るい地上に出ても、たった七日で死んでしまう。子供の頃、そんな話を聞いたことのある方は多いかと思えます。蟬は可哀そうな生き物だな、と思った記憶をお持ちの方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

たしかに、ひと夏を通して様々な種類の蟬が懸命に鳴くその声は、短いのちを精一杯生きていくようにも感じられます。

ある詩人の方は、少し違った見方をしておられました。「蟬の一生における本番は、土の中で安らかに過ごす七年間であり、地上に出る七日間は、子孫繁栄のための最後の奉仕なのだ」と。

「今」という時間を、未来のための準備期間のようにとらえると地中の七年は地上に出る七日間のためにがんばる期間となります。しかし、心に無理をかけず、安らかな日々を積み重ねながら、ゆつくりと晩年を迎え、最後に何かささやかな奉仕でもする、蟬の一生をそんな風に捉えると何か手本にしたくなるようにも思えてくる。そのようにも綴っておられました。

蟬の一生を哀れだと思うのは、やはり私たちの一方的な見方なのかもしれません。人の目には触れない地中で、たしかにそのいのちは息づいているのですね。

未来に向かって進むこと、それも大切なことのひとつです。しかし、前を向くことだけに捉われて、「今このとき」の尊さを忘れてしまっってはならないと教えていただいた気がします。

蟬時雨を聞きながら、今日を、このひとときを、大切に生きたいと思えます。



◆八月の行事◆

・八月十五日（水）

孟蘭盆会法要（仏説阿弥陀経）

午後六時より 西光寺本堂

法要の際お焼香を準備しております。
どなたでもご自由にお参り下さい。

●今月のことば●

「中道」ちゅうどう

「君たち、出家者は二つの極端に近づいてはいけなない。その二つとは、

一つはいろいろの欲を貪り、執着すること。その行いは下劣で卑劣で、愚者のやることだ。賢明な人のすることではない。

二つは身体を痛めつけて苦行をすること。それはただ苦痛だけが残り、意味がない。賢明な人のすることではない。

君たち、ブツダはその二つの極端を捨てて、中道を悟ることができた。」

釈尊が悟りを開かれてから最初にした説法（初転法輪という）が、この中道の教えだといわれています。

釈尊は出家前、王子として誕生し、何不自由ない満たされた環境で育ったといわれています。しかし、そこで安らぎを得ることが出来ずに悩むことが多かったようです。そのためすべてを捨てて修行の道へ出ることを決意します。出家後の六年間は、様々な苦行を行います。ここでもまた、安らぎの境地は得られませんでした。

そこで、釈尊は「快楽を得、欲に溺れた生活は心を満たすものではない。しかしながら、体を痛めつける苦行も、また、悟りへの方法ではない。悟りへ至る方法は、その両極から離れた「中道」を行くことである、という結論を得られました。

これは、中間的な道、中途半端な道ということではなく、偏見をなくしてどちらにも偏らない中立的な立場に立って物事を見る、ということ。わたくしたちの日常におきかえてみても、自分だけの考えに固執せず、また他人や世間の考えに流されすぎない、という状態が心の安定に繋がるのではないかと思えます。

どちらの考えも認めつつどちらにも偏らない「中道」の教えは、出家者だけではなく、わたくしたちの日頃の在り方、生き方に対する教えでもあるのではないのでしょうか。

◆先月の報告◆

六月五日（火）・六日（水）に一泊二日で茨木東組聖跡巡拝バスツアーの旅行がありました。この旅行は毎年一回、六月に行われており、茨木東組十八カ寺のお寺のご住職と寺族、そのご門徒の方々とで行う教化事業であり、参加者皆さんで親睦を深め、共にお念仏をよるこび

あえる茨木東組のために開催されるもので、毎年の本願寺念仏奉仕団と同様、茨木東組の恒例行事であります。今回西光寺からは、総代の寺田様と吉田様と住職の三人で参加させていただき、総数四十二名での旅行となりました。

今回は鳥取方面に行き、妙好人で有名な源左さんゆかりの願正寺と山陰教堂の二つの本願寺派寺院をお参りさせていただきました。出雲玉造温泉のホテル玉泉に宿泊いたしました。鳥取砂丘散策、松江城堀川めぐり遊覧など各地を巡り、宿泊先のホテルでは温泉で旅の疲れを癒して頂き、夜はお酒が入ったの宴会・カラオケなどで皆さん楽しく過ごした旅行でありました。

今後は旅行の案内もこの西光寺だよりを通してお伝えさせていただきますので、どうぞご参加いただけたらと思います。 合掌



願正寺にて



さかなと鬼太郎のまち境港にて。
総代様とねずみ男とともに・・・

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七七一

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>